

市のたつ街 交易からみた多民族の交流

Towns with Markets: The Interaction of
Various Ethnic Groups from the Perspective of Trade

西谷 大

はじめに

①調査地

②市の一日

③店からみた市

④商品からみた市

⑤買い手と売り手からみた市

⑥まとめと今後の視点

【論文要旨】

本稿では雲南省の紅河哈尼族彝族自治州の金平苗族瑤族傣族自治县で6日ごとに1回開催される市をとりあげ、市の仕組みを把握しつつ地域社会に与える影響を考察する。

調査地である者米谷の市の構造から浮かびあがってくる定期市成立の条件は、村民が売ることのできる余剰生産物を有していること、交通が不便で大消費地である遠距離の都会に自ら足を運べないこと、市に生産物を処理する機能があること、そして市ネットワークと商人の介在による商品の移動の必要性などが挙げられる。

定期市は国境や民族という枠組みに関係なく広がることが可能である。そして定期市は、地域社会を市ネットワークに取り込むことによって、地域の生産物や外から入ってくる生活必需品も掌握することが可能なシステムである。

中国周辺地域の歴史は、中国の影響をぬきにしては考えられない。それはおよそ2000年前に漢という統一国家が成立して以来連綿と続いてきた。しかし政治的な側面だけでなく、地域に即したミクロな視点でその影響の具体的姿を描こうとするならば、市のもつ特質と影響をも1つの要因として視野にいれることができ、結果として中国周辺でおこってきた地域の変容の実態を明らかにすることにつながるのではないかと考えられる。